

令和7年度 新田小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

- (1) 基本目標
人間尊重の精神を基盤とする、知・徳・体の調和のとれた、心身ともに健康で人間力豊かな児童の育成
- (2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）
 - ・よく考える子ども：規範意識をもち、自ら考え、進んで学べる子ども
 - ・思いやりのある子ども：自他のよさに気づき、共に伸びようとする子ども
 - ・体力のある子ども：心身ともに健康で気力や体力に満ちた子ども
 - ・はたらく子ども：目標の実現に向けて粘り強く取り組める子ども

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校教育目標の具現化を目指して全教職員が一丸となり、保護者・地域住民と一体となって連携・協働し、活気と創意に満ちた教育活動の展開を通して、目指す学校像に迫る。

《目指す学校像》

- 子どもたちが安心して生き生きと自己発揮できる「どの子どもも輝く楽しい学校」
- 児童や保護者にとって「安心・安全な学校」
- 教職員が互いに学び合い磨き合う「働きがいのある学校」
- 地域住民と連携・協働する「地域とともにある学校」

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) 児童が安心して生き生きと自己発揮できる「どの子どもも輝く楽しい学校」

- ・児童一人一人を大切に、認めてほめて励ます指導により、自己肯定感・自己有用感を高める。
- ・「わかった、できた」授業を展開し、学ぶ楽しさを感じさせることで、基礎基本の定着と、主体的に学ぶ態度の育成を図る。
- ・互いの違いやよさを認め合うきめ細かな支援を行い、すべての児童にとって楽しく居がい感のもてる温かい雰囲気の学級経営を推進する。

(2) 児童や保護者にとって、「安心・安全な学校」

- ・児童が心身共に安心・安全で潤いのある環境の中で生活できるよう、温かい人間関係の醸成や学びを高める環境の整備・活用、校舎等の点検・整備に努める。
- ・児童のよさや学校・学級情報を積極的に発信したり、きめ細かで誠意のある対応を心がけたりして、保護者との連携を密にし、共通理解を図る。
- ・地域と連携を図ったり、交通安全教室、避難訓練などを実施したりして、児童自らが生命を守り危険を予測し回避する行動力を身に付ける指導を強化する。

(3) 教職員が互いに学び合い磨き合う「働きがいのある学校」

- ・協調性と協働性をもち、それぞれのよさを発揮しながら、互いに磨き合える組織づくりをする。
- ・創意ある提案や意見交換を大切にしながら、教職員の資質・能力の向上を目指すとともに、学校経営への参画意識を高める。
- ・教職員がいきいきとやりがいを感じながら勤務し、心身ともに健康で児童と向き合えるよう、働き方改革の視点から「勤務時間を意識した働き方」「校内業務の効率化」「ICTの効果的な活用」などの推進を図る。

(4) 地域住民と連携・協働する「地域とともにある学校」

- ・地域学校園や児童会の取り組み、及び家庭・地域との連携を生かした「あいさつ運動」を通して、規範意識を高める取組を推進する。
- ・学校支援ボランティアや登下校ボランティアなど、学校を支えてくれる方々への感謝の心を育むよう努める。
- ・学校だよりやHP等による情報発信を積極的に推進する。

【若松原地域学校園教育ビジョン】

「つなげよう学び 鍛えよう心と体 共にのびよう WGS 学校園」

4 教育課程編成の方針

- (1) 関係法令、「県教育振興基本計画 2025」、「第 2 次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」「令和 7 年度指導の重点」などを踏まえ、学校経営方針に基づき、知・徳・体の調和のとれた教育活動を展開し、教育目標の達成を期する。
- (2) 「社会に開かれた教育課程」の視点に立ち、社会の変化に向き合い適切に対応していくため、学校教育を通して育むべき資質・能力を明確にし、教科等の関連や地域の教育資源や人材活用を図り、適切かつ、一貫性のある教育課程の編成に努める。
- (3) うつのみやマネジメントシステムによる評価等を踏まえ、実態に即した創意ある教育課程の編成につなげる。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営
児童も教職員も互いを認め合い、成長し合い、自信をもっていきいきと輝く楽しい学校づくりを推進する。
○「認めてほめて伸ばす教育」の実践
○あいさつの響く学校づくりの推進
・わかる授業と居心地のよい温かな学級集団づくりの推進
- (2) 学習指導
「自ら学び、互いに高め合う児童の育成」
～児童の「わかる!」「考える!」「伝える!」を高める授業の工夫～
・わかる楽しい授業の展開 望ましい学習態度、習慣の定着
・「学力の基礎・基本」の確実な定着
・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
・読解力・表現力の育成 ・読書活動の推進 ・家庭学習の習慣化
- (3) 児童生徒指導
「自ら考え正しく判断し、豊かな人間関係を築くことができる児童の育成」
～思いやりの心をもって、互いに認め合う学校生活を通して～
・礼儀を意識した挨拶の定着、規範意識の醸成
・居心地のよい温かな学級集団づくりの推進
・縦割り班活動や異学年流を充実させた望ましい集団づくり
・児童に寄り添い豊かな心を養う個に応じた指導の充実
・家庭・地域・関係機関等との連携
- (4) 健康（体力・保健・食・安全）
「自らの健康に関心を持ち、望ましい生活習慣を身に付けようとする児童の育成」
～生活習慣の改善を目指した取組を中心として～
・健康の保持増進 ・運動の日常化 ・食に関する指導の充実
・判断力・行動力を育む安全教育 ・家庭・地域との連携協力

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1-(1) 確かな学力を育む教育の推進	A1 児童は, 他者と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「児童は, 友達と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答率 85%以上	・興味・関心を高めるための授業の導入や展開, 指導法を工夫改善したり, 認め合い高め合う集団づくりなど学業指導を継続して実施したりして, 児童の学習意欲を高める。 ・校内研修や一人一授業を通して, 対話の中で互いの思いや考えを深め合う授業展開の工夫に努める。 ・進んで学習に取り組むための具体策として, 「自主学習のすすめ」などの指針を子供たちに示すことで, 家庭学習の定着を図る。児童の頑張りを積極的に認めるとともに, 児童同士が頑張りを共有する場を継続的に設定する。		【達成状況】 【次年度の方針】
1-(2) 豊かな心を育む教育の推進	A2 児童は, 思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は, 誰に対しても, 思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒教職員・保護者の肯定的回答率 90%以上	・本校及び地域学校園道德教育の重点項目の一つに「思いやり・親切」を掲げ, 各教科等や体験活動等と関連した道德の授業を連携・工夫して実施することで, 思いやりの心を育む。 ・特別の教科道德及び人権教育年間指導計画に基づき, 教育活動全体を通して計画的に道德及び人権教育を実施する。 ・学級活動などの時間を活用し, ソーシャルスキルトレーニングを行うことで, 人権を尊重する心を育成する。 ・縦割り班で行うわくわく遊びや清掃活動, 兄弟学年で行う農園活動, 感謝の会等の学校行事を通して, 助け合いや思いやりの心を育てる。 ・帰りの会などに友達の良いところを認め合い称賛する機会を設定することで, 相手を思いやる行動を広げていく。		【達成状況】 【次年度の方針】

	A 3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答率 85%以上	・学級活動や各教科の授業や各種検定等において、児童が目標に向かって粘り強く取り組み振り返る機会を設けるとともに、教職員が児童の変容を見取り称賛していく。 ・教職員が認め励ます場として、表彰朝会を行ったり、学期の節目等に教育長奨励賞や校内キラリ賞の表彰をしたりすることで、児童の自己肯定感を高められるようにする。 ・道徳科の「希望と勇気、努力と強い意志」の学習を通して、粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに、実践意欲を高めていく。	【達成状況】 【次年度の方針】
1ー(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」⇒児童・教職員の肯定的回答率 90%以上	・児童が自分の健康に関心をもち、望ましい生活習慣と健康を管理する力を身に付けられるよう、様々な授業や学校行事等において「すくすくファイル」や「食育ファイル」などを活用し、養護教諭や学校栄養士などと連携して保健指導や「衛生管理チェックシート」による日常の生活指導を行う。 ・栄養バランスのとれた食事や望ましい食習慣等、各教科・領域との関連を図った食育を推進する。 ・判断力・行動力を意識した安全教育を推進するために、登校指導や一斉下校時の指導において、より一層児童の実態に即した安全指導を行う。また、交通安全教室、避難訓練等の計画を「判断力・行動力」の視点で見直し、全教職員の共通理解のもと実践する。	【達成状況】 【次年度の方針】
1ー(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、自分の良さや考えを生かしたり、周りと協力し合ったりして、進んで生活をよりよくしようとしている。」⇒児童・教職員の肯定的回答率 80%以上	・宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、キャリアパスポートを活用し、各教科や学校行事等との連携を図りながら、児童が自分のよさに気付く、夢や目標をもって取り組もうとする意欲や態度を全教育活動を通して意図的・計画的に育む。 ・各授業において、家庭や地域社会との連携による体験的活動を実施し、児童が将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする機会とする。 ・体験活動や交流活動を実施し、積極的に友達や異学年の人々と関わろうとする態度を育成する。 ・市内や地域での校外学習等を通して、多くのことに触れる場を設定することにより、それらのよさに気付く興味関心を高められるようにする。	【達成状況】 【次年度の方針】

2- (1) グローバル 社会に主体 的に向き合 い、郷土愛 を醸成する 教育の推進	A 6 児童は、英語を使って コミュニケーションして いる。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、 英語を使ってコミュニケーション している」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 率 80%以上	・ALT を有効に活用した外国語活動を通 して、言語や文化について体験的に理 解を深め、積極的にコミュニケーション を図ろうとする態度を育成する。 ・教師自身が ALT に積極的に関わり、 放課後の打合せを綿密に行い、外国語 活動の教材研究をしたり、公開授業や 授業研究会に参加したりすることによ り、自己の授業向上に努める。 ・該当学年で授業中に使いたい言葉 や表現（クラスルームイングリッシュ） を子供たちに示し、継続して活用する ことで、達成感や充実感の高揚を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A 7 児童は、宇都宮の良さを 知っている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、 宇都宮の良さを知っている。」 ⇒児童の肯定的回答率 80% 以上	・宇都宮学の時間を中心に、伝統文化 等を体験できる学習や、ICT を活用す る機会を設けることで、宇都宮のよさを 児童に気付かせる。 ・生活科、社会科、総合的な学習の時 間の授業や、市内や地域での校外学習 等を通して、学習内容に関連させなが ら児童が身近な地域や宇都宮市のよ さに気付く指導の充実にも努める。 ・道徳において郷土資料を活用し郷 土愛を育む。 ・教師自身が宇都宮市の歴史や文化、 伝統産業、特産物等について理解を深 められるよう努める。	【達成状況】 【次年度の方針】
2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A 8 児童は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、 デジタル機器や図書等を学習 に活用している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 率 85%以上	・情報教育年間計画に基づき、各教科 年間指導計画等と関連を図りながら、 児童 1 人 1 台の端末や ICT 機器を活 用し、AI ドリルを併用して効果的な学 習に取り組めるようにする。 ・市立図書館学校支援室や地域学校 園の学校図書館等を有効に活用し、各 学年の学習のニーズに応じた教育図 書の整備充実を図ったり、調べ学習コ ーナーを設定したりするなど、学校図 書館及び校内の環境整備に努める。	【達成状況】 【次年度の方針】

2-(3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 「わたしは、『持続可能な社会』について、関心をもっている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答率 80%以上	・カリキュラムマネジメントの視点に立ち、各教科や総合的な学習の時間との連携を充実させる。 ・各種出前授業等、関係機関の教育力を積極的に取り入れて、環境問題への関心及び知識・技能を高めるとともに、これまでの生活を振り返り、自分にできることを考え実践しようという意識や態度を育成する。 ・委員会活動の中で、SDGs について取り上げたり、関連番組や SDGs の曲を流したりすることで環境問題について啓発し、関心を高められるように指導していく。	【達成状況】 【次年度の方針】
3-(1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答率 90%以上	・特別な支援を要する児童について、担任が一人で抱え込むことなく、組織で適切に対応できるよう、小さな気付きを伝え合える職員室の環境づくりに努める。 ・特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、支援を要する児童について全教職員で共通理解を図り、個別の対応や1人1台端末の活用など個のニーズに応じた支援を組織的に行う。 ・必要時には即座に校内支援委員会等を開いて対応を検討し、専門機関とつなげるなど、役割分担しながらチームで対応する。 ・適宜個別の支援計画及び指導計画を作成し、定期的に評価改善を加えながら指導支援を行う。	【達成状況】 【次年度の方針】

3- (2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答率 80%以上	・学級活動、道徳科の授業等を通して、人を思いやることや人権を尊重することの大切さを指導するとともに、日常生活の中でいじめが許されない行為であることを繰り返し指導する。 ・全校で「いじめゼロ宣言」を作成したり、強調月間に校内放送で呼び掛けたりする。また、児童が主体となって「いじめゼロ集会」を企画・運営し、望ましい児童集団の育成に努める。 「新田小はいつでもいじめゼロ」を合言葉にして、児童にいじめゼロを意識させる。 ・定期的なアンケートや教育相談等を通して児童の心の状態を共感的に理解した上で、学校いじめ防止基本方針に基づき、組織的な対応によりいじめの早期発見、早期解消を図る。 ・学校の取組を保護者に知ってもらうために、学年だよりにいじめ防止に向けた取組を記載したり、学校公開日や授業参観等でいじめ防止に関する授業を公開したりすることで保護者や地域に発信し、周知を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている」 ⇒児童・保護者の肯定的回答率 80%以上	・児童が相互に認め合う場や、教職員がよさを認め励ます場を工夫して設けることにより、児童の自己肯定感を高められるようにする。 ・教育相談週間（年2回）や学校生活アンケート（年4回）、Q-U（3年以上1回、5年のみ2回）等を有効に活用し、実態把握と要配慮児童の早期発見に努めるとともに、必要時には迅速かつ適切な情報共有のもと、必要に応じて関係諸機関や家庭との連携を図りながら、組織的に支援を行う。 ・不登校対策の手引書（宇都宮市）の合言葉「子どもに寄り添う学校づくり抱え込まずにみんなで支援」に従って、全教職員共通理解のもとに支援を行っていくとともに、必要に応じてケース会議等を行っていく。	【達成状況】 【次年度の方針】
3- (3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活があり、明るくいきいきとした雰囲気である。	・児童相互及び教師と児童の温かい人間関係を育む学級・学年経営を基盤に、学校全体が児童一人一人のよさに	【達成状況】 【次年度の方針】

3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化	【数値指標】 全体アンケート「先生は、困った時に相談に乗ってくれたり、問題を解決しようとしていたりして、楽しく学校生活を送れるようにしている。」 ⇒児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答率 90%以上	目を向け、児童に直接言葉を掛けたり、教師間でプラスのメッセージを伝え合ったりして、児童の自己肯定感を高める取組を行う。 ・児童会活動や異学年交流など、様々な教育活動の内容を工夫し、兄弟学年や縦割り班等の異学年交流を効果的に取り入れることで、高学年児童がリーダーシップを発揮できるようにしたり、全学年の児童が体験を通して思いやりの心を育てるようにしたりする取組を継続していく。 ・教育相談や学校生活アンケート等を定期的に実施し、いじめ等の早期発見、早期解決に努め、家庭とも連携し全児童が安心して学校生活を送れるように全校体制で取り組む。	
4-(1) 教職員の資質・能力の向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答率 90%以上	・授業のねらいを明確にし、まとめや振り返りで確認することにより、基礎・基本の定着を図る。 ・「分かる・できる・楽しい授業」を展開するため、児童の振り返りを生かした授業改善に努める。 ・チームティーチング、少人数指導、かがやきルームでの指導等を通して、児童一人一人の学習状況に応じたきめ細かな指導に努める。 ・児童の様子や学習の成果をさまざまな方法を活用し保護者に発信する。	【達成状況】 【次年度の方針】
4-(2) チーム力の向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答率 85%以上	・学校図書館司書や外国語指導助手 (ALT)、かがやきルーム指導員、スクールカウンセラー (SC) 等、多様な専門性を有する学校スタッフが、「チーム学校」としてよさを最大限に発揮できるよう、教職員間でコミュニケーションを図り、取組の目的や運営方針、方法等について十分に話し合い、共有して取り組めるようにする。 ・学年会を行事予定に明示し、提出物や話し合いが必要な事案について、協力して取り組む。また、校務分掌や、学校全体で相談したい内容について、校内研修等で時間を確保する。	【達成状況】 【次年度の方針】

4-(3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上	・本校の教職員が精神的・時間的なゆとりをもって児童に接することができるよう、児童の実態等を考慮し、教職員の意見を反映させて教育課程や校務分掌、各業務を見直し、各種行事等の目的を明確にして、実施方法の見直し、改善、業務のスリム化を行う。 ・働き方改革の視点に立って、教職員一人一人が勤務時間を意識し、計画的、効率的な業務の処理、改善に努める。リフレッシュカレンダーの活用も図る。 ・学習情報システムや ICT をはじめとした各種システムを効果的に活用し、業務の効率化を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】
5-(1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている。」 ⇒教職員・保護者・地域住民の肯定的回答率 85%以上	・小中9年間を貫く教育が児童の望ましい成長につながるよう、目的や方法について全教職員が理解を共有し、連携して推進する。 ・WGS あいさつ運動や宮っ子チャレンジなど、中学生の行事等への参加などを積極的に受け入れ、地域の活性化を図る。 ・地域学校園内で交流が図れるように、一人一台端末を有効に活用する。 ・各種たよりやホームページなどで、小中一貫の取組の様子が分かる写真を数多く掲載するなど、保護者や地域に向けて積極的に発信し、理解と協力を仰ぐ。	【達成状況】 【次年度の方針】

5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答率 80%以上	・地域協議会との連携を図り、地域教材や人材、学校支援ボランティアを活用した教育活動を計画的に実施するとともに、人材発掘にも取り組んでいく。 ・カリキュラムマネジメントを推進する中で、教育活動に有効な企業等の教育力を積極的に組み込む。 ・オープンスクールを積極的に行い、自由に参観したり参加したりできる機会を多く設け、家庭・地域・企業等との連携を深める。 ・活動の内容を各種たよりやホームページなどで紹介し、活動への理解を促す。	【達成状況】 【次年度の方針】
6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒教職員・保護者の肯定的回答率 85%以上	・学校の安全な環境を維持するため、安全点検実施計画に基づき、毎月、校内施設・設備の点検を組織的に実施し、危険箇所があれば迅速な改善や修繕に努める。 ・危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。 ・熱中症予防対策、感染症対策など、適宜必要な保健指導管理及び関係者への周知徹底に努め、温湿度計や加湿器、サーキュレーターなどを使って、適切な管理を行う。	【達成状況】 【次年度の方針】
6- (2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】 教職員アンケート「私は、授業（授業準備も含む）や業務にデジタルを積極的に活用している。」 ⇒教職員の肯定的回答率 85%以上	・各教科等年間指導計画の見直しを行い、どの単元のどの時間で ICT 機器を活用すると効果的なのかについて検討し、情報の共有を図る。 ・各教科等年間指導計画の中に、どの単元のどの時間で ICT 機器を活用すると効果的なのか、授業実践したことをその都度取り入れ、見直しや補充を図りながら、教員間の情報の共有化を進める。 ・校内研修を設定し、デジタル機器を活用した授業実践の情報交換を行い、教職員の指導力向上を図る。 ・校内研修を設定し、デジタル機器を活用した授業実践の情報交換を行ったり、ICT 支援員から新しい操作技術や授業での活用方法に関する情報を得たりしながら、教職員の指導力向上を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B 1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒児童・保護者・地域住民の肯定的回答率各 80%以上	・全学級ローテーションの「あいさつ運動」や、若松原地域学校園小中連携による「WGSあいさつ運動」を継続していくとともに、「あいさつ運動週間」における振り返りを行い、意識を高める。また、あいさつに対する自分の目標を設定することで、意識を高める。 ・朝や帰りのあいさつに加え、様々な時と場に応じたあいさつの実践に向けて、取組を工夫していく。 ・家庭内でのあいさつを活性化させるために学級懇談や学年だよりを通して啓発していく。 ・校内放送などを活用し、あいさつの大切さを伝え、啓発を続けていく。	【達成状況】 【次年度の方針】
	B 2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答率 85%以上	・生活のきまり（「新田小のよい子の一日」）やマナーについて、児童・教職員・保護者が理解を共有し、同一步調で連携して粘り強く取り組む。 ・児童の実態をもとに、生活目標にきまりとマナーに関する目標を設定し、様々な時間を活用し、自ら振り返る活動を行うことで、児童の主体性を高めながら習慣化を図る。 ・生活のきまりやマナー以外のルールについては、教職員共通理解のもと、全児童に周知徹底していく。	【達成状況】 【次年度の方針】
	B 3 児童は、家庭での学習に取り組み、学習の習慣化を図っている。 【数値指標】 学校独自アンケート「児童は、家庭での学習に取り組み、学習の習慣化を図っている。」 ⇒保護者の肯定的回答率 80%以上	・家庭との連携・協力を図りながら、児童自ら家庭学習の計画・実践・振り返りまでできるよう、保護者への啓発を行い、支援に努める。 ・家庭学習のよい事例やノートを教室や学年間で掲示・紹介し、自主学習への意欲を高めるようにする。	【達成状況】 【次年度の方針】

B 4 児童は本と親しみ、読書を楽しんでいる。 【数値指標】 学校独自アンケート「児童は本と親しみ、読書を楽しんでいる。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答率 80%以上	・朝の活動時間帯の定期的な読書の時間や、ボランティアによる読み聞かせ、読書週間での催し等、本に触れ合い親しむ多様な体験を通して、読書に対する興味関心を高め、楽しさに気付けるようにする。 ・本校図書の分館貸出し、市立図書館学校支援室の有効活用や、児童によるおすすめの本の紹介をするなど、本を手にするための場を増やす。 ・家庭と連携した家読（「家族読書」）を実践し、児童と本をつなぐ取組を推進するほか、保護者への啓発活動も行っていく。 ・図書だよりの発行などを通して、児童の図書活用への意欲を高める。	【達成状況】 【次年度の方針】
B 5 児童は、異学年交流を通して、思いやりの心など、豊かな人間性を育んでいる。 【数値指標】 学校独自アンケート「私は、異学年交流で、多くの友達と助け合いながら楽しく活動している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答率 85%以上	・わくわくタイムでの縦割り班遊びや清掃活動、兄弟学年での農園活動や幼保小連携活動等を通して、助け合いや思いやりの心を育てる。 ・縦割り班の班長を中心に児童が主体的に活動できる機会を増やしたり、学年ごとに役割を与え、互いに教え合う機会を意図的に設定したりする。 ・学習や休み時間など、日常の中で交流できる機会を増やし、様々な学年と関わりをもてるようにする。 ・上学年児童には、誰かの役に立つ経験を多く積ませ、自己有用感を高められるようにし、下学年児童には、感謝の気持ちや、上学年児童への憧れの気持ちをもてるように支援する。	【達成状況】 【次年度の方針】

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

7 学校関係者評価

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。